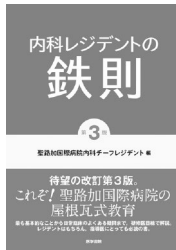


書評

〔評者〕
山中克郎
福島県立医科大学会津医療
センター総合内科



内科レジデントの鉄則 第3版 聖路加国際病院内科チーフレジデント 編

●B5 頁344 2018年4月
定価：本体3,800円+税
[ISBN978-4-260-03461-6]医学書院刊

私にとって聖路加国際病院は憧れの病院である。駆け出しの内科医であった頃、聖路加国際病院『内科レジデントマニュアル』を購入し必死になって勉強した。日本最高レベルの愛の心に満ちた医療が行われているという印象をずっと抱いている。

聖路加国際病院内科チーフレジデントの皆さんが、実践力のあるレジデントを育てるために編集した『内科レジデントの鉄則』は2006年に初版が出版された。6年ぶりとなる今回の改訂では、アドバンスな内容や根拠となる参考文献をより充実させたという。

チーフレジデントは医学知識が豊富なだけでは務まらない。人間的な魅力にあふれ、同僚や後輩の面倒見が良い人だけがチーフレジデントとして選ばれる。診療でよく出合うケースを疑似体験しながら、若手医師が間違えそうなポイントについて、きめ細かいアドバイスを受けられる点がこの本の最大の魅力である。

「当直で呼ばれたら」、「内科緊急入院で呼ばれたら」、「入院患者の管理で困ったら」の3つの章では、救急や入院診療で若手医師が困りそうな症候や疾患にフォーカスが当てられている。

「鉄則」という形で最初に必要最小限の重要ポイントが明示されているのが良い。さらに鉄則が実臨床でどのように役立つのか、治療はどうするのかについても非常に具体的である。わかりやすい図や表がたくさん

あることも読者の理解を助ける。

「もっと知りたい」というコラムでは知っていると同僚にちょっと自慢したくなる知識がこっそり書かれている。私も10年前から知っているようなふりをして、研修医たちにウンチクを傾けたくなくなる。

実際の症例からたくさんのお話を学ぶという勉強スタイルが私は好きである。有名な教科書を読んでも、実際のケースがイメージできないと記憶にあまり残らない。この本で紹介されている症例は、歴代のチーフレジデントたちが大いに悩んだ経験をもとに構成されているのだろう。

聖路加国際病院で研修していなくても、研修の内容を知り、そのエッセンスを体得できるのは非常にありがたい。本書の教えをすべて記憶する必要なんかはない。この本のどこにそれが解説されていたかをおぼろげに覚えてさえいれば、当直や入院患者の対処に困った時、大いに心強いただろう。何度も読み返すことで「怒涛の反復」となり記憶に定着する。

さらに指導医にとっても、どのような点に注意して研修医を教えればよいのかという教育法を学べるのはとても心強い。伝統ある聖路加国際病院の医学教育が全国の病院に広がり、そこでも大きな花が開くことを願わずにはられない。